



再生機構から転身

九州のファンド業界にこの春、貴重な戦力が加わった。企業再生を支援する「ドーガン・アドバイザーズ」の中西雅也さん(31)だ。

企業再生のために国がつくった産業再生機構(3月に業務完了で解散)から転身。ドーガンが今月、九州の地銀5行と設立する「九州ブリッジファンド」の支援先を選ぶ部長を務める。

生まれも大学も東京で、最初は大手銀行に就職。機構解散で大手金融機関から誘われたが、九州弁の「どがんですか」

「伸びしろ」が魅力

を社名の由来に掲げるドーガンを選んだ。

九州との接点は、機構時代に担当した宮崎交通。2年間、宮崎市に住み、傘下ホテルの改装では従業員と徹夜で商品を並べ替えた。東京のオフィスで書類を見て指示を出すだけではわからない現場の面白さとともに、学んだことがあった。

宮交の取引先の食材メーカーなどと接すると「昭和的経営のままなのにいい会社だなあ」とよく感じた。明確な事業計画や資本活用策がなくても、扱う素材や環境のよ

さで利益が出ている。効率的な経営をすれば、劇的に業績が向上する『伸びしろ』が大きい会社がいっぱいある」と。

九州ブリッジファンドは、後継者難の中小企業が事業を続けられるよう支援する。この目的に特化した地域限定ファンドは全国初。「九州には、子供が東京から帰ってこなくて、と廃業を考えている中小企業が多い。ファンドが事業承継の橋渡し役になれるということを九州から実証したい」

ドーガンの森大介社長は「地方ファンドの存立には人集めが一番の課題」と話す。支援先に人材を派遣するにも、経験者の確保が不可欠だからだ。「東京で退職する九州出身の団塊世代など、地元縁のある人のネットワークをつくりたい」

「横文字を使って説明すると『わからん』とはっきり言う九州の人に、東京と違うやり方の必要性を教えられた」と話す中西雅也さん(福岡市中央区で